

## 療育や相談活動を

名古屋市長白区表山 魚住 君枝子（きんえこ）を訪ねて

発達障害をはじめとする障害やこころの問題をもつ親子の、療育やカウンセリングを中心とする支援活動を行うNPO法人を立ち上げた小児科医がいます。名古屋市長白区表山クリニックスの魚住君枝子（きんえこ）さんです。どんな思いで始めたのか、同クリニックスを訪ねました。（中東 久直）

## 親同士のつながり広げたい

内科医の夫が表山クリニックスを開業したのは1988年で、魚住さんは副院長として小児科を担当してきました。「小さいころから診ていた子どもたちが成長し、中にはこころの不調を訴えてくる人も出てきました。そのうち、心療内科を加えるようになりました」

「世田谷区」まで通院していることを知り、親たちの集まりに誘われ、専門的用語が飛び交い、きょとんとしている私に、『小児科の先生方にはあまりにも、私たちのことを知らなさすぎます。もっと勉強してください』と言われました。私にできることは何だろうと



魚住さん

ということが私の中の課題になりました。たと振り返ります。住宅地にあるクリニックスでの日常の診療と運営に加え、休日夜間当番医の仕事、学校・幼稚園・保育園の担当医など小児科医は、時間的余裕がない。そんな中、心理士も配置して、発達障害の子どもにとって必要な診療を積極的に行えばやるほど、診療報酬点数が低いので赤字になる現実がありました。

魚住さんはいいます。「昨年度から小児特定疾患療育センターの診療報酬が少し改善され、2年を限度として月2回まで加算できるようになりました。しかし、準備から検査、解析まで含めればかなり長時間かかる心理検査は、診療報酬点数が低すぎます」

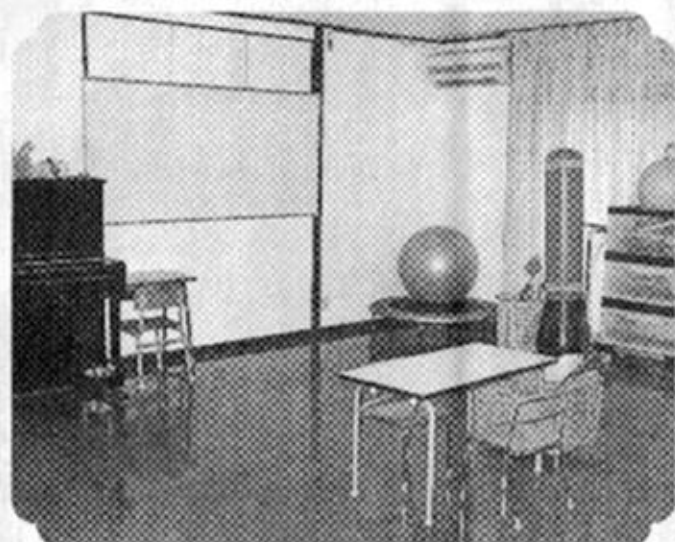
治療だけでなく子育て支援が柱病気の治療だけでなく、小児科医は子育て支援が柱だ。魚住さんの信条です。その部分に目を向けてほしい。魚住さんはいいます。

を希望する親たちが増えています。魚住さんはいいます。「専門医療機関や療育機関で対応しきれない部分を埋めていく役割を、心理士などの他職種と協力して担っていききたい。あいち小児保健医療総合センターの児童精神科医による小児にかかわる職種

をぶっつけていられないと、『NPO法人 発達・心理相談センター』『ゆうこうの家』を立ち上げたのが3年前。歩いて数分のクリニックス駐車場の一角にある2階建ての民家です。

大きなボール、ぬいぐるみ、遊具・おもちゃ、ピアノが並ぶホールや和室、白い机とイスのある相談室などがあります。臨床心理士は3人体制です。個別の療育を基本にして、より健やかで豊かな成長と社会への適応を支援します。

個別療育は1回50分で6000円、カウンセリングは1回50分で5000円（月1〜2回の場合）。多くのニーズがあり、開設からあっという間に約半年待ちの状態となったといえます。魚住さんは、「教育と福祉と医療の狭間にあって、適切な支援がまだ十分でない発達障害のある子どもを持つ親の思いを知らされました。余暇支援教室などの活動も続け、親同士のつながりを広げられればと思っています」と話します。



ホールには遊具、おもちゃ、ピアノなどが並んでいます

私にできるのは何だろうと……

ある時、長い付き合いの子が発達障害で、国立成育医療センター（東京



おもちゃがいっぱいの部屋

小児科医の喜び責任感しながら

高機能自閉症、アスペルガー症候群、ADHD（注意欠陥多動性障害）、学習障害などの発達障害と診断されても具体的な対応がわからなかったり、あるいは、対応しきれずに不安障害やうつ状態になって、相談や療育



ンターの児童精神科医による小児にかかわる職種

を対象とした講座も毎年開催されるようになり、小児科医の対応も始まっています。生まれた直後から人の一生にかかわり続ける小児科医の喜びと責任を感じながら、私も役割を担っていききたいと思っています」